

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ (西ユニット)		
所在地	岡山県浅口群里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24 年 6 月 27 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・家庭の雰囲気が出るように日常の中で出来ることを手伝って頂いたり、毎日の日課で体操やレクリエーションを取り入れた、楽しみや安らぎのある生活を支援します。・庭には、季節の花が緑のカーテンを作り、野菜畑を管理し季節の野菜を収穫し、料理に使用、食卓の彩りを添えています。・毎月の誕生日会やお花見、敬老会には家族や友人を招待して一緒に食事を摂って頂いています。又、面会時には、日頃の様子をお話して、気軽にホームへ来て頂けるよう支援しています。家族の方が遠くに住んでいて、面会になかなか来られない家族の方には、定期的に近況をお知らせしています。・医療面においては、医師との連携が出来ており、24時間体制で対応出来るようになっており、ご家族様にも安心して頂けるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

毎年恒例となっているグリーンカーテンや季節の花がプランターに植えられ、心地よい空間が玄関まで広がっており、ちょっと寄り添ってみたいような親しみやすい雰囲気がある。訪問した日は天気がよかったため、何名かの利用者が庭で日向ぼっこをしながら、職員と一緒に歌ったりお話をしたりしながら楽しそうに過ごされており、微笑ましく感じた。施設から少し離れた所に野菜畑と聞き、管理者と一緒に見学に行ったところ、本格的な畑が広がっており驚いた。当日はかぼちゃを収穫して事業所に戻り、夕食のおかずは何にしようかと利用者と一緒に相談していた。利用者もだんだんと重度化しており、職員が中心となり管理をしているが、ときどき散歩がてら寄り添ってみたい、収穫を喜んだりすることで日常生活のいいアクセントになっている。  
母体である医療機関が近くにあるため、24時間365日体制で連携がしっかりとできている、管理者も看護師であり医療体制の充実やターミナルケアなども家族の要望やチームケアにより積極的に支援を行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(西ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、定時に事務所に掲げている「なごみ基本理念」を当日の勤務職員で齋唱することで新たな気持ちで利用者に関われるように一日の始まりとしています。	朝礼で両ユニットが集まり理念を唱和し、変化のあったことや注意してほしいことなど話をしている。理念を軸として日々の支援を行っており、特に言葉遣いには重きを置いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の案内があれば出来るだけ、参加させて頂いています。(運動会、学芸会、友愛セール参加、かすみ保育園との交流など)	地元の行事にできるだけ参加し、お祭り神輿の時には利用者の方から花を渡すなど楽しんでる。自然な近所付き合いもあり、近所の方や家族からジャガイモや玉ねぎなど野菜の差し入れも多い。昨年はタレントの城みちるさんの慰問もあり、利用者もとても喜ばれたと話される。	地元の小学校や幼稚園との交流、ボランティアの受け入れ、またタレントの慰問など積極的に外部との交流を行っており、すばらしいと感じた。今後も継続してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえて、地域の研修に参加しながら認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議事録を作成し、意見や疑問点をそのままにせず次回開催までに評価ならびに問題解決につなげ報告できるように事業所内で話し合いを行いサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回を目標に開催しているが、日程調整など困難な状況である。参加者は地域包括支援センター、自治会長、家族、にいくつかの職員の職員などである。日頃のサービス状況の報告や介護保険の情報交換、災害時避難の協力の依頼などテーマを決めて意見交換を行っている。	日程や議題など年間予定の作成や会議時間の設定など工夫して頂き、定期的な運営推進会議の開催を期待しています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会や研修手続きなどで町行政担当者へ連絡情報収集や指導を仰いでいる。	町行政担当者からは研修案内など随時ファックスで連絡があり、事業所からは事故報告書等の書類をできるだけ持参し指導を仰いだり、事業所の状況を報告する等顔なじみの関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知しながら、止めるのではなくさりげなく声を掛けたり、一緒についていくなど、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしている。又、落ち着いた利用者の帰宅願望が激しい時は、身体拘束をせずに家族に説明して一時的に一部施錠を行い、事故発生に繋がらないよう措置をすることがある。その場合に玄関は開放している。	身体拘束における勉強会を研修後等を通じて実施している。事故防止や危険回避のために止むを得ずベッド柵やセンサーマット等を使用する場合は事前に家族に説明し、了承を得てから実施している。職員は週1回のカンファレンスにて情報を共有している。	やむを得ず身体拘束を実施する場合、家族への説明やカンファレンス等必要な段取りは行っているが、記録に残していない場合がある。家族に安心して頂き、信頼関係を継続していくためにも、家族との話し合いや経過の記録、実施の評価や今後の必要性の検討等を目に見える形で記録に残しておくことも必要だと思われる。身体拘束マニュアル作成と同時に再度検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体虐待、心理的虐待がないか、自由や個人の尊厳を守って温かみのある関わりが出来るか振り返り職員同士お互いのケアに注意を払い防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている。又、社会福祉協議会などが主催する成年後見制度に研修に参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制についても詳しく説明を行い、同意を得るようにしている。又、利用者様の不安やご家族様の疑問にも丁寧に説明を行い理解と納得の上契約して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃の会話の中で、ご家族には、面会時や電話であったり、機会をとらえ、職員全員が気軽に問いかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気作りを行っている。地域推進会議においては、利用者家族の参加をお願いし意見・要望を頂いて満足度の向上に役立てている。	「なごみ通信」を定期的に作成し、日常生活の様子や行事等の報告を行っている。家族の面会時や電話にて意見や要望を聞いている。利用者の希望や態度、表情などから家族に面会をお願いするなど配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者はスタッフの要望・意見を聞くよう心掛けているが、不満や苦情を把握しきれない可能性もあるので、日頃からコミュニケーションを図るように努め、スタッフの意見やアイデアを運営に取り入れたりしている。	「まずやってみよう」という考えのもとに、職員からレクリエーションや行事などの提案やアイデアが出る事が多く、法人事務局などの承認を経て実行に移されている。また、法人代表である院長にも往診等で事業所に訪れる際に意見や提案を随時行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻りに現場の様子を見たり、現場の就業環境の把握しておりスタッフ各自のやりがいなど向上心を持って働けるよう、職員の資格取得に向けた支援や健康管理を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	継続して法人内勉強会を毎月第1水曜日に開催しているので職員に可能な範囲で参加を推進している。外部研修にも希望があれば参加してもらい内容をカンファレンスの時に発表している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やスタッフは地域の交流会に参加してサービスの質の向上に役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、可能な限り、本人の思いや不安を受け止め、安心していただけるように自然な声かけをし心身の状態や苦しんでいること、悩みなどしっかり受け止め、利用者に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活状況や困っていること、どういった介護を家族が望むのか。要望や不安なこと、疑問点など丁寧に聞き取り、事業所として可能な支援やリスクなど説明し納得できるものか、じっくり話し合っ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用者やご家族の思い、困っていることにじっくり耳を傾け、対応出来る事、出来ないことなどよく話し合い、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の質を高めていくケアを目指し、常に一方的な押し付けにならないよう利用者の心に寄り添って人生の先輩として尊敬しあう関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに面会に来られた時にお伝えしたり、電話連絡したり、関係が途切れないように留意している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのそれぞれの生活習慣を尊重し、本人が希望されたら、ご家族に相談して馴染みの美容院へ出かけたり、家族と墓参りに出かけるよう支援している。又、今までのそれぞれの生活習慣を尊重し、友人、知人、親戚の方などの訪問もあるので続けて交流が持てるよう支援している。	近隣に住んでいた利用者が多く、家族だけでなく知人や親戚が面会に来てくれる事がある。馴染みの店やお墓参り、外食等家族の協力にて出かけている。毎年、夏祭り開催しており地域との交流のひとつとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の食事やおやつ時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたり、役割活動(おしぼり、洗濯物たたみ)などを通して利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族の方と外で会ったときなどに挨拶を交わしたり、近況を話したりしている。又、連絡、相談があった場合には必要に応じて出来る範囲で対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々利用者とは会話するなかで、言葉や表情、仕草などから思いを推し測ったり、確認するよう努めている。意思疎通が困難な場合は、介護する側の都合ではなく、利用者の本人本位での介護、介助するよう心がけている。	職員は利用者のさりげない行動や会話から思いや意向を汲み取るようにしており、できるだけ個別対応を基本としている。また、担当職員が本人としっかり話しをしたり、思いを把握できるよう夜間帯の時間を活用することも多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、これまでの生活環境、習慣などアセスメントやモニタリングシートを参考にして利用者の状況を把握するよう努めている。面会に来られた家族の方や知人と言葉を積極的に交わすよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するよう心掛けている。日中、夜間の記録、申し送り、ケアチェック表を参考にしながら、スタッフ同士で情報交換し、利用者の状態に合わせて介護するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者とは日々の会話や意思表示の出来ない利用者の場合は家族の方が面会に来られた時や電話連絡などで思いや意見などを聞くようにし、出来る範囲で希望にそえるよう努めている。アセスメント・モニタリングシートを参考にスタッフ同士で意見交換しカンファレンスを定期的に行っている。	利用者や家族の希望、意見を把握し、カンファレンスにて職員で意見を出し合い、介護計画を作成している。また主治医に本人の心身の状態や注意点など聞き、プランに反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にファイルを用意し、日中、夜間の様子を記録している。食事・水分量・排泄・バイタルなどは、一覧できるチェック表を見ればスタッフ全員が把握できるようにしている。それ以外の意見や入居者の状態変化は連絡ノートに記入して出勤時に目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会など行事には案内状を出し、家族の方にも参加してもらい一緒に食事をしてもらうようにしている。急な外出などにも柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町行政担当者、民生委員、地域の役員など参加され、周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。ボランティアの情報・協力、又、レクリエーション用品の貸し出しなど地域にある資源を利用させてもらったり相談に乗ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を密に結んでる。主治医とは定時の連絡、急変時は24時間対応の連携が出来ている。	入居時に本人・家族が希望するかかりつけ医を伺い、意向に沿って決定している。母体が協力病院のため往診は週4回、系列の訪問看護からも週2回の訪問があり、24時間いつでも連絡ができる体制が整えられており、適切な医療を提供することができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるように情報交換をしている。入院中には、不安や混乱がないよう事業所の職員が見舞うようにし、ご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかに退院支援に結びつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いができるように情報交換をしている。ご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。	入居時に家族に「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。母体である病院の協力もあり、これまでに何度も看取りの経験がある。その都度主治医や家族と話し合い、家族の不安感を軽減するよう努めている。また、管理者は職員の不安感や夜勤帯の恐怖感等へのフォローも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備え、定期的に地域の消防署の協力を得て救急手当や蘇生方法を受講している。夜勤帯の緊急対応については、マニュアルを作成し、実際の場面に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は、三宅消火器にお願いし、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災に心がけている。	消防署立会いのもと年2回、避難訓練を実施している。また緊急連絡網にて通報訓練も実施している。運営推進会議を通じて自治会長にも緊急時の協力要請を行っている。	地域への呼びかけはできているが、地域住民の避難訓練への参加はまだないとのこと。避難訓練の記録は写真も多く、とても分かりやすくまとめられていた。会議等で記録を見て頂くとともに、訓練に参加して頂けるよう呼びかけを継続してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、援助が必要な時もまず本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけている。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成し、プライバシーに配慮しながら日常の支援を行っている。また、利用者に対してゆっくりと声をかける、無理強いをしない、自分で決めて頂くよう待つなど本人の気持ちを第一に考えて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい利用者に対しての身体介護を行う時には、それぞれ思いがあるので「これから・・・します。良いですか。」など、しっかり声かけして、その方の表情や意思を聞いたり、確認した上で支援助けています。些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたいもの、食べたいもの、する、しないなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調に合わせた離臥床や食事の時間、食べやすい食物形状に工夫したり、入浴も気が向かない時には、その気になるまで待ってもらったり、体調に合わせた対応をしている。行事などの段取りは職員の意向が優先しやすい面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時には、手伝うようにしています。自己決定が出来にくい利用者の洋服選びなどは、スタッフが決めてしまいがちな面も少なくないが声をかけながら本人の気持ちに沿った支援をしている。本人の馴染みの理美容院で希望に合わせたカットやパーマをかけてもらえるよう連携している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとり一人の状態に合わせて食べやすいようにメニュー、形態を工夫し、体調に合わせて量にして摂ってもらっています。又、食事は職員も利用者と共にテーブルを囲み、行事のときには、家族の方も一緒に頂き、和やかな雰囲気大切にしています。庭の畑で採れた野菜を食材にし、下ごしらえをして頂くとお話も弾みます。	近くの畑から季節野菜(かぼちゃ、サツマイモ、いちご、きゅうり、スイカ等等)を収穫し、作る楽しみや食べる楽しみを共有している。嚥下機能が低下している利用者には、きざみ食やトロミを付ける等調理方法を工夫したり、お茶ゼリーを作り水分補給をしたりしている。誕生日会等行事のときには家族も一緒に食事をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとり一人の健康状態を常に把握して水分摂取量、栄養、食事が偏らないように注意をしています。飲み込みの悪い利用者には補助食品や嗜好品で補ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけや見守りをし、出来ない方には出来ないところを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄出来るよう支援している。パンツ・パット類も利用者に適したものや使い心地の良い、皮膚トラブルに繋がらない物を検討している。	排泄チェック表に時間など詳細に記入し、個々の排泄パターンを把握し、早めの誘導で失敗の無いよう支援を行い自信に繋げている。オシメから紙パンツへと移行するなど段階的な支援を行い排泄が自立できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンを把握し、頑固な便秘にならないよう水分摂取を促し、水分補給の重要性について職員間で話し合ったり、毎日のレクリエーションの時体操をしたり、散歩に誘って楽しく身体を動かす機会を作っている。下剤や便を軟らかくする薬を処方されている方には、状態に合わせて服用して頂いている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員が一方向的に決めずに、入居者のその日の体調や希望を確認し、入浴して頂いている。入浴を拒否する人には、時間を開けたり、声かけを工夫するなどしている。又、入浴出来にくいときには、清拭、足浴等に対応しています。	週2～3回、本人の希望に合わせて入浴支援を行っている。入浴時間も本人に合わせて1時間位かけて入浴している方もおられる。入浴時にはコミュニケーションを積極的に図り、楽しみのある入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。又、その方のペースで昼寝したり、寝付けない時には、暖かい飲み物を飲んで頂いたり、話相手となるなど配慮している。入眠導入剤や不安感を和らげる薬など服用の方は、日中の活動が妨げになっていないか確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼付、職員が尚用を把握出来るようにしている。処方の変更があった場合には、連絡ノートに記載し、職員全員が確認できるようにし、状態観察に努めている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服薬出来ているか確認している。自力で服薬出来ているか確認している。自力で服薬出来にくい利用者には、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩に出かけて、草花を摘んで帰ったり、花瓶に生けたり、日常の事を俳句に詠みノートに記したり、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、おしぼり、洗濯物たたみ等お願いできそうなことを頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外出先が違いますがご家族の意向で墓参り、法事、食事に行かれることもあるので続けられるよう、お願いしています。天気の良い日には、職員が体調に合わせて散歩に誘ったり、ドライブ、買い物に出かけて気分転換を図っています。	利用者と近隣の店に買い物や地元の歴史資料館などにも出掛けている。家族の協力もあり、季節行事の花見、植木市や道の駅に出かけたり、選挙にも参加している。天気のいい日に庭先で日光浴や体操をするなど外気浴ができるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もおり、美容院・食事・買い物へ行ったときは財布から出して支払いをしています。又、ご家族よりお金を預かり、事業所で管理している人でも外出に買い物をし、欲しいものを買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話をしたり、手紙をだしたいと希望された時には、やり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすい様に目印をドアに表示したり、日中の採光、夜間の転倒防止のために照明の確保に努め、室温、湿度に配慮して快適な空間作りを心掛けています。リビングは、ゆったりした広さがあり、台所からは包丁の音や料理、おやつ、コーヒーの匂いがし、壁には写真や季節の飾りを工夫しています。又、ホームの庭には、緑のカーテンや花々が咲き、野菜作りもしています。	玄関を開けるとハの字に広がるように手すりが配置されており、広さがあると同時に動きやすく工夫されている。フロアは木目調で落ち着いた感じがあり、人が集まりやすいように机や椅子が配置されている。窓からは季節を感じるグリーンカーテンが見えたり、壁掛けや花飾りなどにも五感を刺激するような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルや椅子、ソファを配置し、自由に寛げるようになっている。食事時には自分の席が用意してあるので落ち着いて食事出来るし、テレビをゆっくり見たいときには、ソファに腰掛けて見られ、お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口に表札を掲げ、ご自分の部屋を確認できるよう、目印にしています。出窓には鉢植えの花や観葉植物が置いてあり、壁には写真や手作りの壁掛けが掛けてあります。ベッドやタンスは利用者の希望や要望に合わせて使いやすい配置にしています。ご家族の協力を得て、利用者の馴染みの物を持ち込んで頂いています。	利用者自身の生活スタイルに合うように、部屋には馴染みの家具、家族の写真などが飾られ、できるだけ家と変わらない生活ができるよう配慮されている。部屋には洗面所もあり、自分の歯ブラシやお化粧品など整理されている。毎月のカレンダーや貼り絵など季節に合わせた作品が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、手すりの増設、玄関のスロープ化を実施している。ホーム内も安全に移動できるような、ゆったりした見通しの良いスペースになっており、利用者が車椅子でも自力で移動が安全に出来、職員も見守りやすいような間取りになっている。		